



僕は、子どもの頃から目の下にクマがある。

それは鮮明な夢を毎日見ているからだ。

現実より絶望的な世界や、現実より理想的な世界を、自分の頭の中で作り上げているのだから、
疲れるのは当たり前である。たまに、そんな全体像を作り上げる自分の脳の能力を、底知れない
と思うことがある。

洗練されたデザイン、設計。だれがこんな世界を作りあげたのか。自分だ。

けれど目が覚めると、みすばらしい恰好をして、外へ出かけていく。

そしてやってくるのは、やらなければいけないこと。

やらなければいけないことは、灰色がかった薄い緑で、いくら食べても増えていく、藻のようだ
。

夢で見た、あの世界に住めるといい。

そんなことをたまに思う。

カラフルな芯を持った木々、青や赤の色鮮やかな葉、

柔らかなシュークリームみたいなベッド。小さな自分専用の冷蔵庫。

そんなことで、僕は休む暇がない。

目を覚ませばやらなければいけないことが押し寄せて、目を閉じれば、鮮明な夢が押し寄せる。
切れ目のないそれらは、液体のように僕の中を通りすぎる。

いつかおぼれてしまうのではないかと、僕は思う。おぼれないように、僕は必死で今日も泳ぐ。
生まれてから、死ぬまで。ずっと。

【2018-07-16】指さし小説 第28話

<http://p.booklog.jp/book/123003>

今回のテーマは、「めじ」でした～

知らなかったのですが、メジマグロのことらしいです。

私はマグロが苦手で、あまりマグロ業界のことは詳しくなかったので、ゲと思いましたが、調べていくと、自分と共通点のある部分が……

そんなところをお話にしました。

著者：かっこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/resipi77/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/123003>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト